

## 子宮筋腫に関する調査結果(2014年10月)

		全症例数	モルセレータ 使用	モルセレータ 使用割合(%)	悪性症例
子宮全摘術	開腹(ATH)	21,935	0	0	27
	TLH(LAVH・膈上部切断術含)	18,064	1,604	8.9	24
計		<b>39,999</b>	<b>1,604</b>	<b>4</b>	<b>51</b>
筋腫核出術	開腹(AM)	8,227	0	0	3
	TLM	20,120	16,176	80.4	7
	LAM	3,758	95	2.5	2
	計	<b>32,105</b>	<b>16,271</b>	<b>50.7</b>	<b>12</b>

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会

## 術前診断について

	子宮全摘術(%)	膈上部切断術(%)	筋腫核出術(%)
超音波	203(100%)	160(78.9%)	203(100%)
MRI	202(99.5%)	157(77.3%)	202(99.5%)
膈部・頸部細胞診	197(97%)	153(75.4%)	188(92.6%)
体部細胞診	146(71.9%)	117(57.6%)	104(51.2%)
CA125	83(40.8%)	69(34%)	84(41.4%)
腫瘍マーカー(LDH)	157(77.3%)	126(62.1%)	154(75.9%)
その他			

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会

## 悪性症例について

年度	件数
2011	18
2012	24
2013	21
計	63

術式	件数	播種	総数	悪性の頻度 (%)
ATH	27	6	21935	0.12
AM	3	0	8227	0.04
LAM	2	0	3758	0.05
LM	7	2	20120	0.03
TLH (LAVH/腔上部切断術含)	24	3	18064	0.13
計	63	11	72104	0.09

\*ATH: 1例は、術中の診断により拡大手術へ移行

\*TLH: 3例が開腹移行となり、1例で播種あり

病理診断	件数
子宮肉腫	43
子宮体癌	11
子宮頸癌	1
STUMP	6
増殖症	2
計	63

\*子宮肉腫: 2例 低悪性度内膜間質肉腫、  
5例 子宮内膜間質肉腫

追加治療	件数
化学療法	13
再手術	24
なし	24
不明	2
計	63

転帰	件数
完治	26
治療中	11
死亡	5
経過観察中	20
不明	1
計	63

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会

## 悪性症例について(腹腔鏡手術に限る)

年度	件数
2011	10
2012	11
2013	9
計	30

術式	件数	播種	総数	悪性の頻度 (%)
LAM	2	0	3758	0.05
LM	7	2	20120	0.03
TLH (LAVH/腔上部切断術含)	21	2	18064	0.12
計	30	4	41942	0.072

病理診断	件数
子宮肉腫	22
子宮体癌	5
子宮頸癌	0
STUMP	3
計	30

\*子宮肉腫: 2例 低悪性度内膜間質肉腫、  
4例 子宮内膜間質肉腫

◆ 播種した4例は、LM (子宮肉腫)とTLH (STUMP)で再手術された。うちLM 2例は、初回手術でモルセレータが使用された。

◆ STUMP: smooth muscle tumor of uncertain malignancy potential

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会

## モルセレータについて

モルセレータを使用しない場合の対処法	203施設 複数回答可
開腹	69
LAM	118
臍から回収	111
腹壁創部から回収	103
腔から回収	88
他社製品の使用	21
メス	1

モルセレータ使用に際してのインフォームドコンセント	
播種のリスクを説明していた	61
播種のリスクを説明していない	142

モルセレータのメーカー	J&J	カール ストルツ	使用せず
TLH (LAVH含む)	91	20	92
腹腔鏡下腔上部 切断術	39	12	152
TLM	150	20	33
LAM	29	5	169

一般社団法人 日本産科婦人科内視鏡学会